

本会の設立以来の経過概要

前理事長 高橋 勇

本会は創立30周年を迎えた。本会がここまで発展し、多くの事業を達成できたのは、諸先輩の先生方のご指導とご鞭撻ならびに歴代の役員・各種委員会の委員・特別講演やシンポジウムの演者と座長などの各先生方、その他多くの方々のご協力とご支援があったからにほかならない。この機会に改めて深甚の謝意を表する次第である。

私が、事務局長そして理事長として微力ながら本会の発展のため尽くしてきた間に、歩んできた道程を振り返ってみた。今後これらを礎石として、後進の方々のご協力により本会が一層の発展を遂げるよう祈ってやまない。

昭和48年4月：本会は、家畜の薬剤耐性菌が当時畜産・公衆衛生の両面から大きな問題となり、重要性が高まってきたので、当時この問題について検討していた7、8名からなる研究グループが母体となり、世話人代表に川島秀雄氏、世話人に柴田重孝氏はじめ、獣医学関係主要機関（大学、研究所、農水省、地方庁など）の代表者が参集、協議の上「家畜の耐性菌研究会」の名称の下で発足した。理事長には川島秀雄東京農業大学教授が、また、理事および監事には各機関を網羅した代表者が就任し、事務局は日本獣医畜産大学獣医微生物学教室（担当 高橋 勇理事）に置くこととなった。

昭和48年9月：臨時総会において新理事長に小堀 進日本大学教授が選任された。（在任期間は昭和58年までの10年間）。なお、初代の川島秀雄理事長は就任2カ月後の6月に急逝されたので、6～9月の間は森本副理事長が代行した。

昭和49年4月：第1回シンポジウムを開催した。シンポジウムはこれ以降、小委員会において時宜に適したテーマを選定のうえで、毎年春の開

催が継続している。なお、毎回シンポジウムの際に特別講演として、会員の参考になる重要な課題について各専門家に講演を依頼してきた。

昭和49年4月：動物用抗生物質・合成抗菌剤略語表、薬剤耐性菌文献リスト（1970～73）、薬物残留に関する文献リスト（同）、ならびにこれらに関する参考資料（総説などの別刷）の4点を作成し、会員に配布した。なお、以後略語表は継続して毎年、文献リストは平成11年度まで毎年、参考資料は必要に応じて、その都度発行した。

昭和51年：獣医学領域における細菌の薬剤感受性測定法の標準化は本会の重要な使命の一つである。そこで、まず大腸菌やブドウ球菌の一般細菌を対象とした測定方法について小委員会を結成し、原案を作成し、理事会の議を経て本会の標準法として、日本獣医師会誌（29巻2号、90～91頁、昭和51年）に公表した。さらに、これ以降も逐次、動物由来のマイコプラズマ、ウレアプラズマほか3菌種について、委員会やシンポジウムなどで検討のうえ、測定基準を作成し、会報に公表した。

昭和54年4月：会則を一部改正し、会の事業に家畜への抗菌剤の応用上の問題点も採用することとした。

昭和55年2月：「家畜の耐性菌研究会報」第1号を発刊した。その内容は第6回シンポジウムの講演内容の詳細記事とともに、会務報告も併せて記載した。会報は以後も毎年発行し、第6号以降は動物用抗生物質・合成抗菌剤の略語表を毎年増補・改定したものを添付することとした。

昭和58年4月：総会において新理事長に柴田重孝麻布大学教授が選任された（在任期間 平成3年までの6年間）。なお、小堀 進前理事長は病氣療養中のところ、同年6月に逝去された。

昭和 58 年 4 月：会名を「家畜抗菌剤研究会」と改称した。同時に会則も一部改正し、会の事業にこれまでの家畜の耐性菌問題の検討と併せて、家畜への抗菌剤の適正使用の問題も取り上げ、以後、これら 2 本柱で進めることとした。

昭和 60 年 4 月：第 12 回シンポジウムで、薬剤の応用面に関する新企画として「最近開発された家畜の細菌性呼吸器病及び消化器病用抗菌性物質の基礎面と応用面」のテーマで、新開発薬 6 種についての講演を実施した。これ以降も随時同様の企画を実施することとした。

平成 3 年 4 月：総会において、新理事長に高橋 勇日本獣医畜産大学教授が選任された（在任期間 平成 12 年までの 9 年間）。会則の一部改正の上、名誉会員兼顧問として柴田重孝前理事長及び春田三佐夫前副理事長を、名誉会員として大熊俊一前監事を推挙した。なお事務局は、これまでと同様、日本獣医畜産大学獣医微生物学教室（担当 澤田拓士理事）におくこととした。

平成 4 年 4 月：本会の事業の柱の一つに水産関係の問題を取り入れるため、会名を「動物用抗菌剤研究会」と改称し、会則の一部を改正して、会名、目的、事業内容、対象会員を畜産領域のみで

なく、水産領域も考慮に含めたものとする事となった。

平成 6 年 8 月：動物用抗菌剤の臨床評価に関する検討委員会を発足させ、検討を重ね、その結果を「動物用抗菌剤の臨床試験実施基準（試案）Ⅰ，Ⅱ」としてまとめ、会報第 18 号及び 19 号に掲載した。

平成 11 年 9 月～12 年 4 月：新規事業委員会を発足させ、事業内容の検討を行った。4 回の委員会で次の 3 つの新規事業が企画され、理事会、総会の議を経て、平成 12 年度から逐次実施することとなった。その内容は、①犬、猫における抗菌剤の使用実態調査（特に耐性菌）、②動物用抗菌剤耐性菌の公衆衛生に及ぼす影響の検討、③動物用抗菌剤マニュアル（理論と実際）の出版の 3 点である。

平成 12 年 4 月：総会において新理事長に小久江 栄一東京農工大学教授が選任された。また顧問として高橋 勇前理事長及び鈴木 昭前副理事長を推挙した。なお事務局は引続き日本獣医畜産大学獣医微生物学教室（担当 片岡 康理事）におくこととした。